



SPRING



SUMMER



AUTUMN



WINTER



FUKUSHIMA

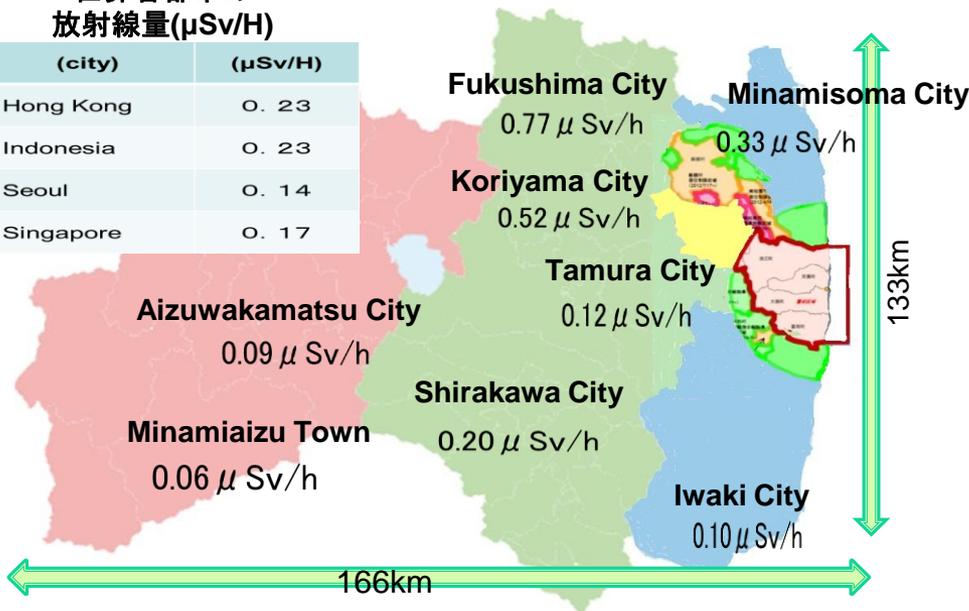
放射線の状況

- 福島原子力災害の結果、放射性物質の多くの量が大気中に放出。
- 一方、空気中の放射線量は事故後に大きく低減。

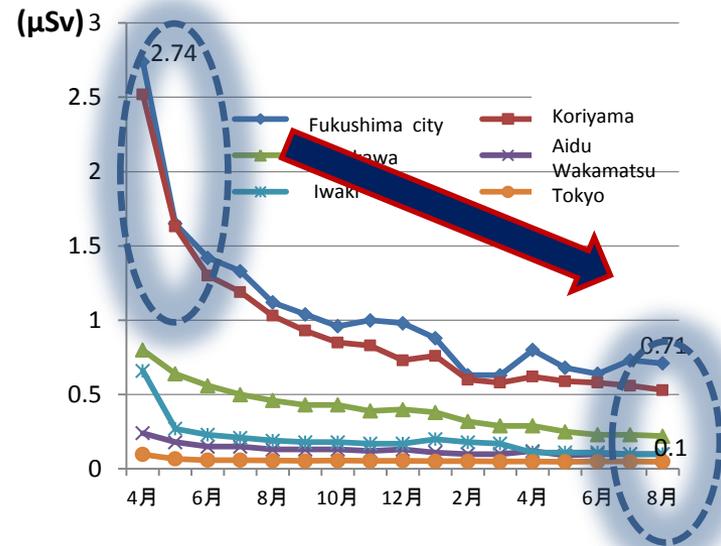
環境放射能測定結果 (2012.10.20 午前8:00)

世界各都市の放射線量(μSv/H)

(city)	(μSv/H)
Hong Kong	0.23
Indonesia	0.23
Seoul	0.14
Singapore	0.17



事故後の空気中の放射線量

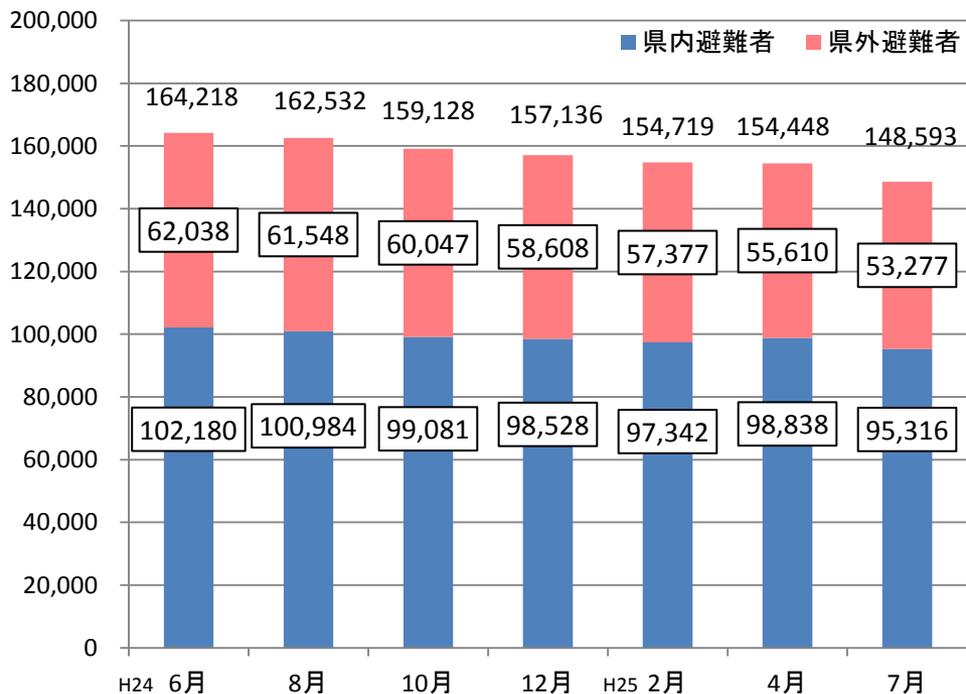


避難者の状況

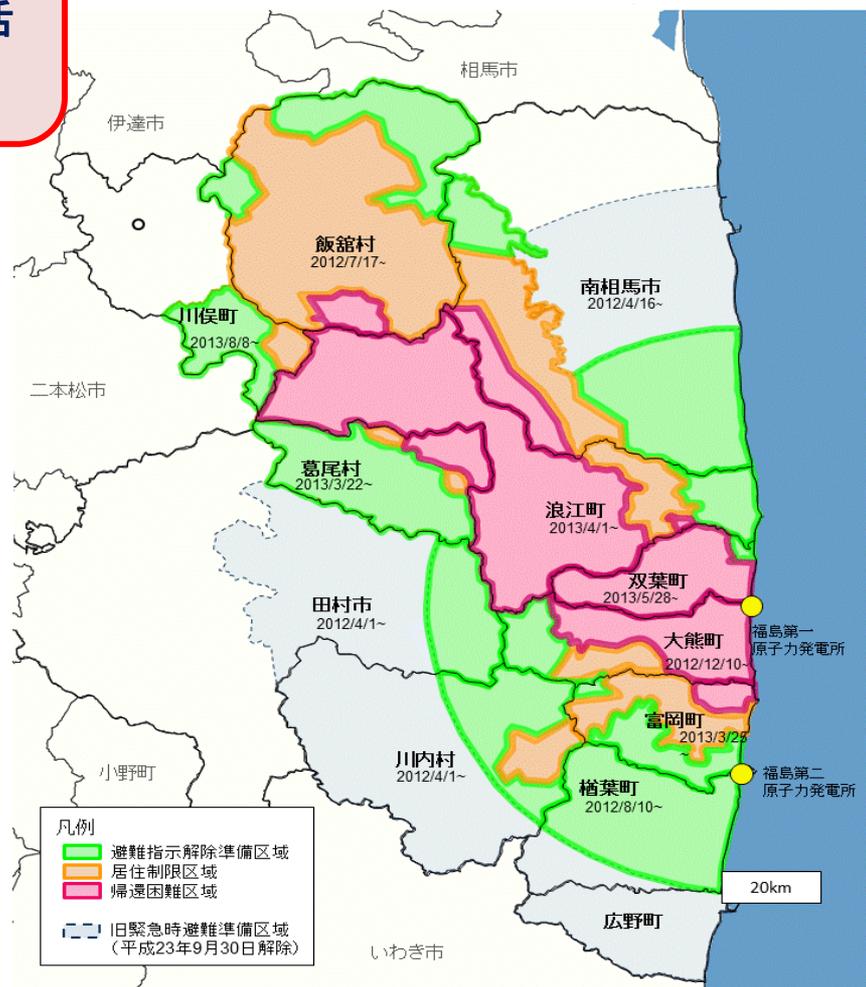


平成25年9月現在の避難者数は15万人を切り、14万4,688人となっています。このうち県内への避難者は約9万3千人、県外への避難者は5万1千人となっており、まだまだ多くの方々が避難生活を余儀なくされています。

避難者の推移



避難指示が出された地域の状況



県内での暮らし



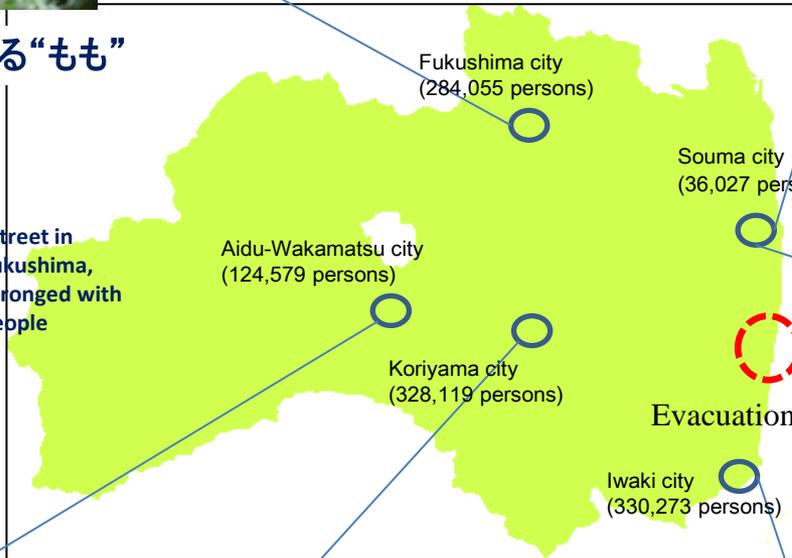
相馬野馬追(相馬市)(伝統的な武士の祭り)

吾妻連峰とふくしまを代表する“もも”



鶴ヶ城

street in Fukushima, thronged with people



仮設商店街(南相馬市鹿島)

NHK大河ドラマ
“八重の桜”が福島
県会津地域を舞台に
放送されています。



いくつもの場所で開催されたコンサートに有名なミュージシャンが参加



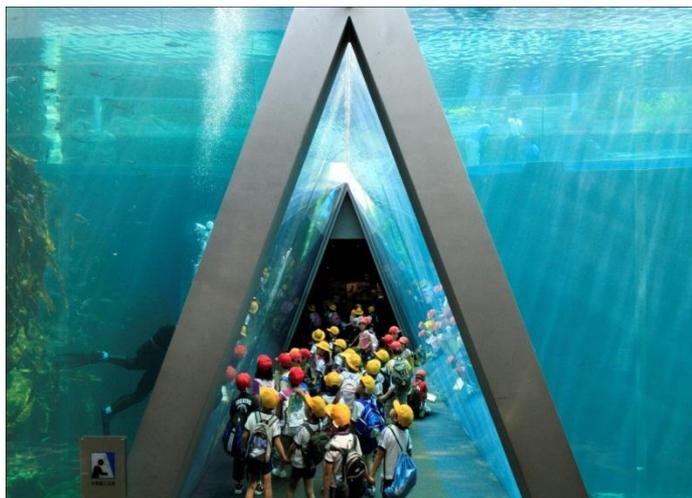
三春の滝桜



いわき市で開催された女子高生によるフラガールズ甲子園



福島の子元気な子どもたち



アクアマリンふくしまの再開
津波により海洋動物の多くを失った海洋科学館



除染された校庭での
運動会



福島復興のキーワード 「3C」

環境

Clean

除染、放射性物質の低減

人

Clean

人への放射性物質の影響の遮断
→放射線医療・県民の健康

エネルギー

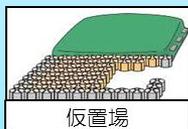
Clean

再生可能エネルギーの推進

環境回復

《除染の推進》

- モニタリング充実・強化
- 生活圏、農林地等の除染推進
- 人材育成・除染技術向上
- 仮置場等の確保
・維持管理

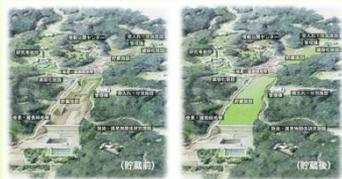


《食品の安全確保》

- 農林水産物モニタリング強化
- 身近に食品を検査できる体制整備



環境回復



《廃棄物等の処理》

- 汚染・災害廃棄物の円滑な処理
- 処理施設の確保
- 建設副産物の適正な処理

《拠点の整備》

- [福島県環境創造センター](#)（仮称）の整備
- 国内外の研究機関の誘致



最先端の技術開発・研究・連携協力

福島県内の空間放射線量の推移



県内の空間放射線量は、平成23年4月時点に比べ、かなり下がってきています。一方、除染については、発注率が伸びてきているものの、実績率が伸び悩んでいるのが現状です。今後もさらなる推進に向け全力で取り組んでいきます。

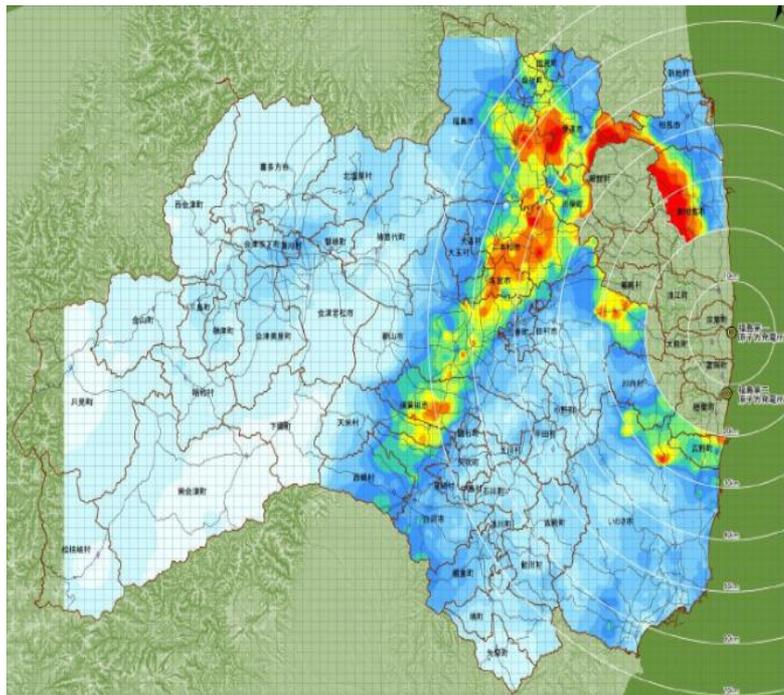
◆福島県環境放射線モニタリング・メッシュ調査結果に基づく福島県全域の空間線量率マップ

凡例

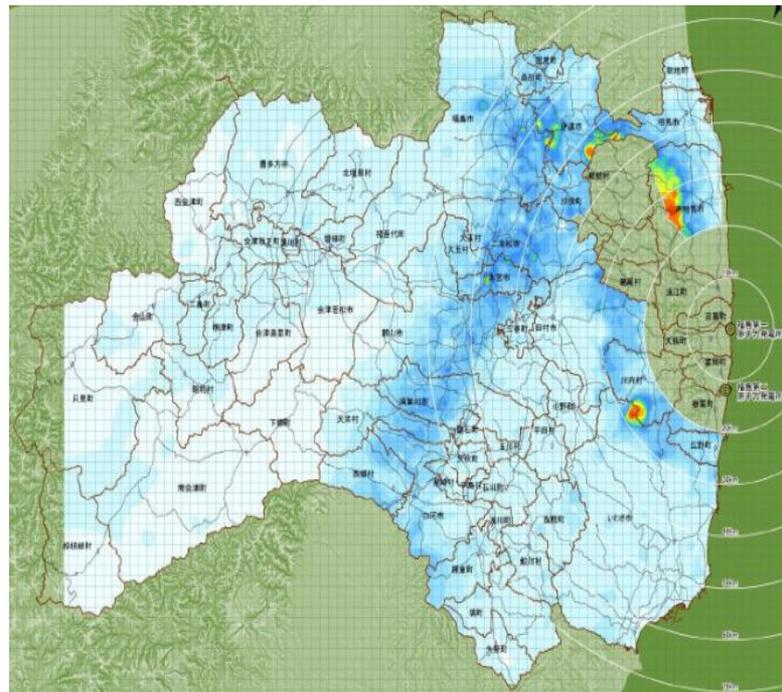
— 主要道路

推定値 $\mu\text{Sv/h}$

0.0 - 0.1
0.1 - 0.2
0.2 - 0.3
0.3 - 0.4
0.4 - 0.6
0.6 - 0.8
0.8 - 1.0
1.0 - 1.2
1.2 - 1.4
1.4 - 1.6
1.6 - 1.8
1.8 - 2.0
2.0 - 2.5
2.5 - 3.0
3.0

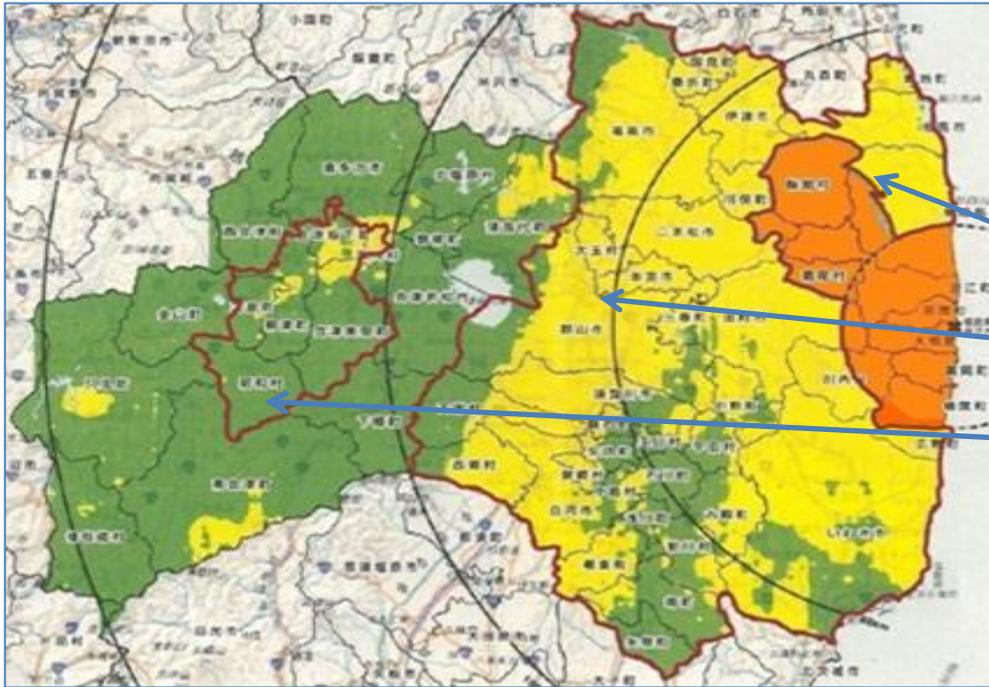


2011年4月



2012年10月

放射性物質汚染対処特措法に基づく除染の責任分担



	実施主体
避難指示区域	国
1.0mSv~	市町村 (国: 国有施設) (県: 県有施設)
1.0mSv未満	市町村 (町内会)



福島県環境創造センター(仮称)の概要

【基本理念】

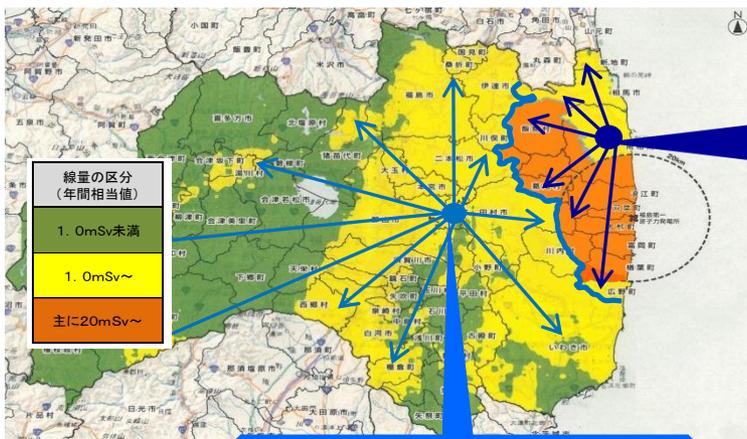
- 放射性物質により汚染された環境を早急に回復し、県民が将来にわたり安心して暮らせる環境を創造する。
- 国内外の研究機関と緊密な連携の下、世界に冠たる国際的研究拠点を目指す。

B施設 (南相馬市)

- 機能
 - ①原子力関連施設周辺のモニタリング
 - ②原子力関連施設の安全監視
- 施設概要
 - 敷地面積: 3.7haのうち1~2ha
 - 延床面積: 3,000㎡程度
 - 鉄筋コンクリート2階建 1棟



萱浜ニュースポーツ広場



A施設 (三春町)

- 機能
 - ①モニタリング ②調査・研究
 - ③情報収集・発信 ④教育・研修・交流
- 施設概要
 - 敷地面積: 8haのうち4ha程度
 - 延床面積: 16,000㎡程度
 - 鉄筋コンクリート2階建 3棟



田村西部工業団地

【整備スケジュール】

整備工程	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
基本設計 実施設計	→				
建設工事			A施設 B施設	A施設 一部開所	開所 全施設

安全・安心な子育て環境の整備

◇ 健康管理の取組

基本調査(事故後4カ月間の外部被ばく線量調査)

- ・全県民約205万7,000人を対象に実施
- ・25年7月末現在 483,088人から回答



甲状腺検査(超音波検査)

- ・18歳以下の子ども約36万人が対象
- ・25年7月末現在 216,809人に実施



ホールボディカウンター検査(内部被ばく検査)

- ・25年7月末現在、県では145,306人に実施
(全県では25年5月末現在、401,244人を検査)



個人線量計の配布(外部被ばく積算線量測定)

データベースの構築

県民の長期にわたる健康管理と治療に活用

◇ 18歳以下の県民の医療費無料化

- ・子どもの健康を守り、県内で安心して子育てができる環境をつくるため、平成24年10月から実施

◇ 子どもたちの活動を支える取組

○ 子どもの体験活動を支援

- ・小中学校等が行う総合学習等の活動
- ・スポーツ少年団や子供会が行う体験活動
- ・「自然の家」での体験活動



裏磐梯でのカヌー体験



バウムクーヘン作り体験



郡山自然の家



会津自然の家

○ 子どもの運動機会を確保

- ・屋内運動施設等の整備
- ・遊具の更新 など



福島市 十六沼公園



南相馬市 全天候型運動場



郡山市開成山公園

県民の健康管理の状況



基本調査

- ・自記式質問票 **23.5%**(H25.7.31現在)
(回答者数483,088人/対象者2,056,994人)

<外部被ばく線量推計結果>

【全県分】0～2mSv未満の割合 **94.8%**

※原発事故発生直後から7/11までの4か月間の外部被ばく線量を推計



甲状腺検査

- ・<先行検査>(平成23～25年度)
震災時18歳以下の子どもを対象に現状確認のための検査
→実施率 **約60.2%**(H25.7.31現在)
(受診者数216,809人/対象者約36万人)

- ・<本格検査>(平成26年度～)
対象者が20歳までは2年ごと、それ以降は
5年ごとに検査を継続

(平成25年6月7日検査までの結果確定分)



検査結果確定者数

192,886人

※ 検査結果確定者数は、県内及び県外の検査機関で受診した受診者のうち結果が確定した方の総数。

判定結果	判定内容	人数	割合
A判定	(A1) 結節や嚢胞を認めなかったもの	106,823人	55.4%
	(A2) 5.0mm以下の結節や20.0mm以下の嚢胞を認めたもの	84,783人	44.0%
B判定	5.1mm以上の結節や20.1mm以上の嚢胞を認めたもの	1,279人	0.7%
C判定	甲状腺の状態等から判断して、直ちに二次検査を要するもの	1人	0.001%

- ・ A1、A2判定は次回(平成26年度以降)の検査まで経過観察。・ B、C判定は二次検査を実施。
- ・ A2の判定内容であっても、甲状腺の状態等から二次検査を要すると判断した方については、B判定としています。

<参考>福島県外3県における 甲状腺有所見率調査結果

- <対象地域>
青森県弘前市、山梨県甲府市、長崎県長崎市
- <調査対象者>
3～18歳の者 4,365人
- <調査結果>
【A1】1,853人(42.5%)
【A2】2,468人(56.5%)
【B】 44人(1.0%)
【C】 0人(0.0%)

【出典】環境省報道発表資料



ホールボディカウンターによる内部被ばく検査

【検査実施結果(県)】 預託実効線量(おおむね一生涯に体内から受けるとされる内部被ばく量)

1ミリシーベルト未満	1ミリシーベルト	2ミリシーベルト	3ミリシーベルト
149,566人	14人	10人	2人

※県ではホールボディカウンター18台体制(平成25年6月現在)で検査をしており、18歳以下の子ども、妊婦を優先に実施しております。

累計検査人数(平成23年6月～平成25年8月)149,592人

県産品の安全・安心を確保する取組

◇ 農林水産物の検査

生産段階
(産地・生産者)

リスク要因への対応

- 農用地の除染と吸収抑制対策の実施
- 出荷時の安全確認
(農家段階での肥培管理の徹底など)

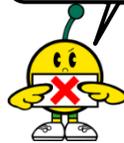
緊急時環境放射線モニタリング

- 主要な品目・摂取量の多い品目の検査体制を充実強化

産地での検査

- 米は全量全袋検査
・平成24年度は30kg袋で約1,130万袋を実施
基準値超過は71袋のみ
- 野菜・果樹は、簡易分析装置により出荷前に検査を実施

基準値を超えたものは流通させません！



流通・消費段階
(流通事業者・消費者)

情報の見える化～消費者への情報提供～

- ・ ホームページによる検査結果の公表
- ・ 検査済みラベルの貼付 など



学校給食の検査



日常食の検査



加工食品の検査

- ・ 福島県ハイテクプラザなどで実施



前処理



検体充填



測定

◇ 工業製品の検査

- 福島県ハイテクプラザで実施
- 工業製品表面に存在する放射性物質から放出される放射線量の測定を実施



スクリーニング



測定



検査機器

県産農林水産物のモニタリング状況

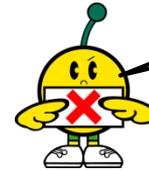


福島県では、放射性物質が基準値を超える食品を流通させないため、検査体制を強化し、安全を確認しています。特に主食であるお米については、県内全域で全ての米袋を検査し、出荷・販売するお米には検査済シールを貼付しています。

また、自家消費野菜等の放射性物質を分析するための簡易分析装置を県内全市町村に配備するとともに、食品と放射能に関するリスクコミュニケーションの取り組みにも力を入れています。

(H24年4月～H25年7月末)

県産 農林水産物	検査件数 (件)	基準値超過数	
		(件)	(%)
玄米	10,304,616	71	0.0007%
野菜 ・果実	9,840	7	0.07%
畜産物 (原乳・肉類・鶏卵)	8,903	0	0.00%
山菜・ きのこ(野生含む)	1,952	166	8.50%
水産物	9,871	1,016	10.29%



基準値を超えたものは
流通させません！

全量全袋検査

県の管理の下、全ての県産米を対象に検査を実施。



検査済みの玄米を使用した米袋には、シールを貼って確認できるようにしている。

【参考】食品中の放射性セシウムの新基準

単位: Bq/kg

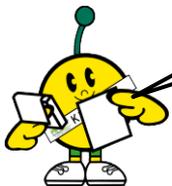
国際的に見ても厳しい基準で食の安全を管理しています。

暫定規制値	
穀類・野菜類・肉・卵・魚・その他	500
牛乳・乳製品	200
飲料水	200

New!

新基準値 (H24年4月～)	
一般食品	100
牛乳	50
乳児用食品	50
飲料水	10

	国際的な指標	
	アメリカ	EU
全食品 1,200	1,250	1,000
	1,000	
	400	1,000
	1,000	



再生可能エネルギー(「先駆けの地」)①

ステップ1

初期実効型プロジェクト

- 地域への再エネ導入拡大
- 福島再生可能エネルギー研究開発拠点の整備
(産業技術総合研究所)
- 実証研究
- 関連産業の誘致
- 企業の参入・取引支援



ステップ2

長期熟成型プロジェクト

- スマートコミュニティの実現
- 世界初の浮体式洋上ウインドファームの実現
- 関連産業の一大拠点化へ成長



ステップ3

再生可能エネルギー産業等の飛躍的発展



福島県の再生可能エネルギーマスコットキャラクター「再エネくん」

雇用の創出・
持続的に発展可能な
社会の実現



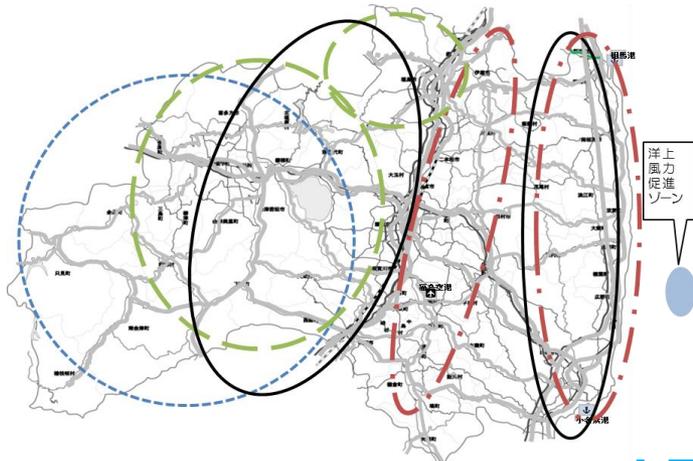
再生可能エネルギー(「先駆けの地」)②



再生可能エネルギーの一大産業集積地ふくしまの形成

再生可能エネルギー資源に恵まれている地域のイメージ

- 水力
- 地熱
- 風力
- 太陽光



再生可能エネルギー産業フェア
(REIFふくしま)
2012の様子

人材育成

- セミナーの開催
- 大学等における技術者・研究者等の育成

海外展開

- セミナー・共同研究等
- REIFふくしま出展等を通じた県内企業とのマッチング

ネットワークの形成

- 関連産業集積推進協議会
- 関連産業推進研究会



取引拡大

- 販路拡大支援
- ビジネスマッチング支援
- REIFふくしま開催

研究開発・技術支援

- 産総研による拠点整備
- 革新的エネルギー研究開発
- 産学官連携

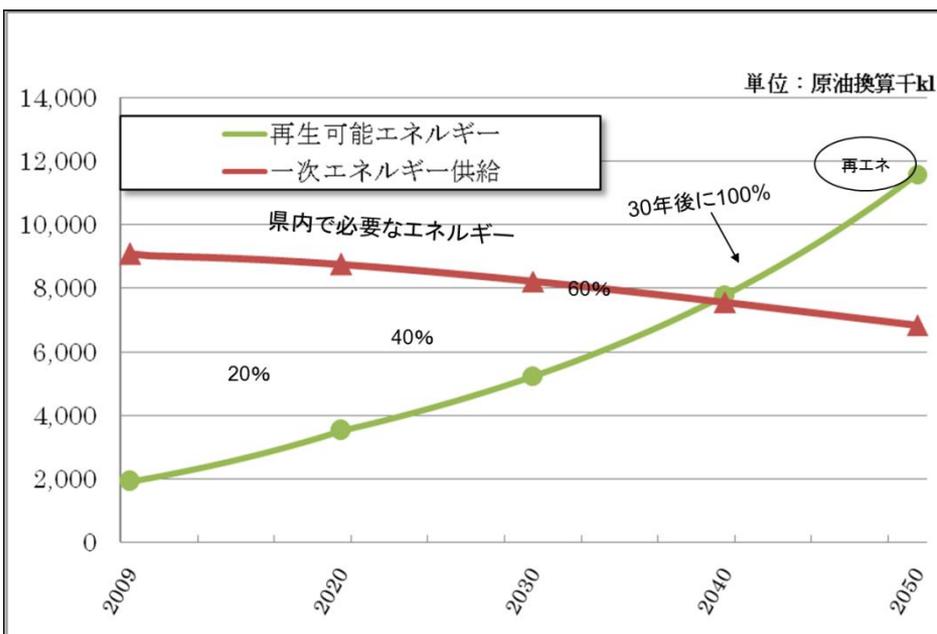


実証試験

- 浮体式洋上風力発電実証研究
- スマートコミュニティの構築促進
- 次世代技術開発等

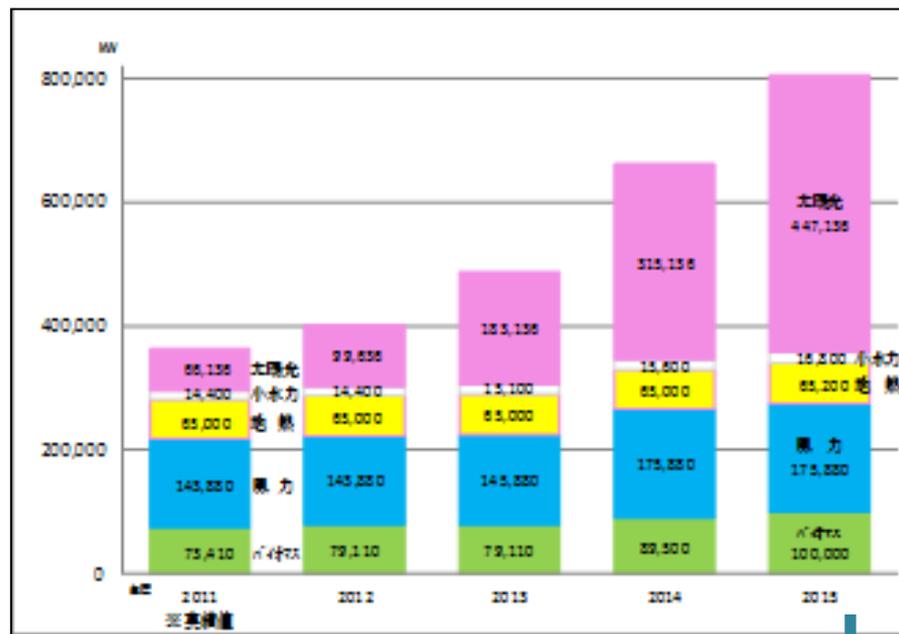
再生可能エネルギー(「先駆けの地」)③

「再生可能エネルギー推進ビジョン」(H24.3) 中長期の再生可能エネルギー導入目標



- 県内の1次エネルギー供給に占める再生可能エネルギーの割合
(2009年度実績： **約20%**)
- 2020年度までに **約40%**
 - 2030年度までに **約60%**
 - 2040年頃を目途に **100%以上**

「再生可能エネルギー先駆けの地 アクションプラン」(H25.3) 短期的な導入見込み量



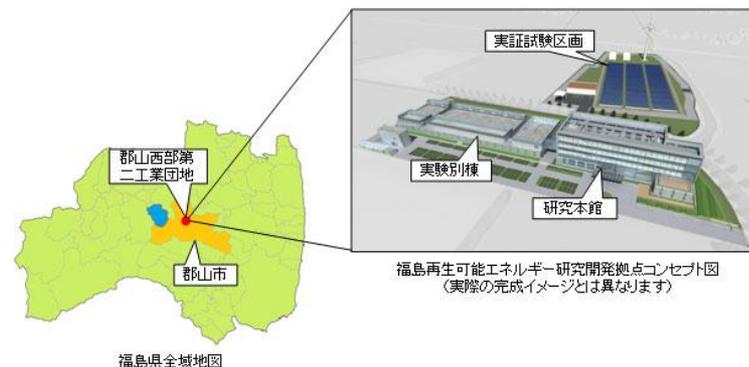
◆ 2015年度導入見込量：約 800,000 kW
(大規模水力を除く発電設備容量) (原油換算395,300 kl)

再生可能エネルギー(「先駆けの地」)④

福島再生可能エネルギー研究開発拠点の整備

- 産業技術総合研究所(AIST)が主体となり、再生可能エネルギーの早期実用化を目指した、応用中心の研究拠点を福島県内に設置。
- 昨年末に施設の建設に着手。
平成26年4月の開所を目指す。
- 予算額101億円(23年度3次補正)
9億円(25年度当初)
- 開所に先立ち、企業が開発した再生エネに関連する技術・製品に対する性能評価・品質評価を企業との共同研究として実施。

福島県再生可能エネルギー研究開発拠点



完成イメージ

立地場所	郡山市西部第二工業団地
敷地面積	55,000m ²
本館(4階建)延床面積	6,900m ²
別棟(平屋建)床面積	4,600m ²

医療機器関連産業の集積①

【福島県の医療機器関連データ】

○医療機器生産金額
976億円(全国第5位)

[平成23年薬事工業生産動態統計年報]

○医療機器受託生産金額
224億円(全国第1位)

[平成23年薬事工業生産動態統計年報]

○医療用機械器具の部品等生産金額
124億円(全国第1位)

[平成22年度工業統計調査]



○「Haptic-Optical技術による優しさと安全性を備えた先端医療機器の開発」
○医療関連産業集積プロジェクト補助金

研究開発
推進

○薬事コンサルテーションの実施
○プロジェクトマネージャー活動

参入支援
・地域
活性化

拠点
整備

福島県医療機器
開発・安全性評価
センター(仮称)

ふくしま次世代
医療産業集積
プロジェクト

情報発信
・海外展開

○メディカルクリエーションふくしまの開催
○MEDICA出展

医工連携
・人材育成

○医療福祉機器研究会
○医工連携人材育成セミナー

医療機器関連産業の集積②

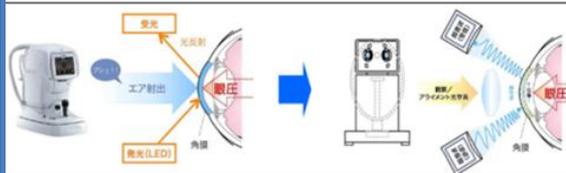
医療関連産業集積プロジェクト補助金 (H24～)

ふくしま医療福祉機器開発事業費補助金 (予算総額77億円)

■主に中小企業による医療機器開発を行う。



「医療用ロボットスーツHALの開発」

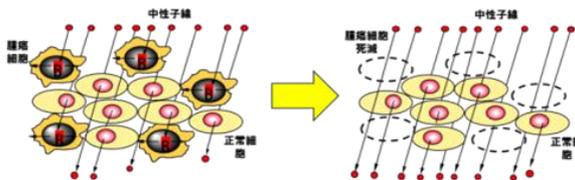


「緑内障診断を支援する非接触で患者にやさしい超音波眼圧計の開発及び製造」

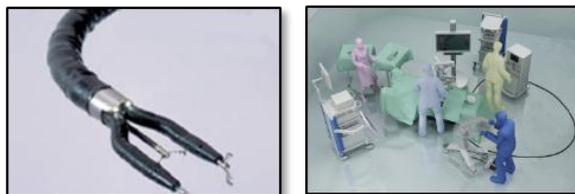
現在20件採択

国際的先端医療機器開発実証事業費補助金 (予算総額60億円)

■世界的に先端的な医療機器開発を行う。



「ホウ素中性子捕捉療法 (BNCT) によるがん治療機器の開発・実証計画」



「多関節軟性手術支援ロボティックシステムの開発・実証事業」

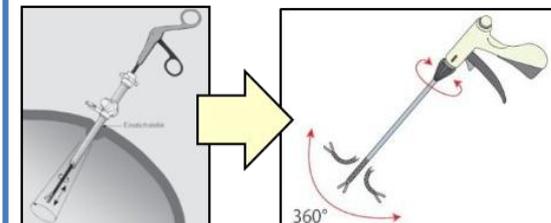
現在2件採択

革新的医療機器開発実証事業費補助金 (予算総額13億円)

■医師主導治験による医療機器開発を行う。



「胃がん検診受診率向上のための胃用誘導型カプセル内視鏡システムの開発」



「患者への優しさと安全性を兼ね備えた次世代内視鏡下手術用鉗子の開発」

現在4件採択

H25年度に新規募集予定
(補助額: 最大3億円/年)

世界初の医療機器を目指す

県立医大の医師主導治験による医療機器開発

産業振興と雇用の創出



県内では工場の新増設の動きが急増しています。今後も企業立地補助金による支援等で、雇用の創出と併せた本県産業の復興再生に取り組みます。

◆ふくしま産業復興企業立地補助金 380社を指定

県内に工場等を新設又は増設する企業を支援し、生産規模の拡大と雇用の創出

(平成25年9月現在)

<指定を受けた主な業種>

- ・輸送用機械関連
- ・半導体関連
- ・医療福祉機器関連
- ・再エネ関連 等

4,614人の
雇用創出見込み

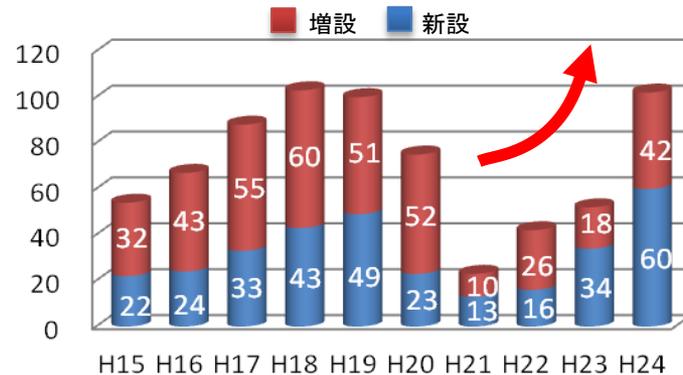


<県内で工場の新増設の動きが急増>

福島県内の工場[敷地面積1,000㎡以上]新・増設状況
※県工業開発条例に基づく設置届出件数

	平成23年 1月～12月	平成24年 1月～12月	前年比 増減数
増設	18件	42件	+24件
新設	34件	60件	+26件
計	52件	102件	+50件

【データ出典】福島県商工労働部調べ



企業立地支援による主な新設・増設事例

パルプ・紙・紙加工品製造



加工紙製造



電気機械器具製造



ランドセル製造



医薬品原薬製造



太陽光関連部品製造



自動車関連部品製造



電気計測器製造



繊維工業、化学工業 他



ふくしま宣言

全国、そして世界の皆さん、これまでの、心のこもった数え切れない御支援に、福島県民は大いに助けられ、励まされ、勇気をいただきました。

改めて、心より感謝を申し上げます。

皆さんの支えと県民の努力があって、

このふくしまにも、今ようやく復興の芽が出始めました。

この小さな芽を、私たちみんなの手で、しっかりと大きく育てたい。

そして、やがて大きくなったその木の下に、

笑顔あふれる子どもたちが集まる、そうしたふくしまを、

私は創っていきたいと考えています。

「私たちは必ず、美しいふるさとふくしまを取り戻します。

私たちは必ず、活力と笑顔あふれるふくしまを築いていきます。

そして私たちは、このふくしま復興の姿を世界へ、未来へと伝えます。」



ありがとうございました。

